

十五夜

9月17日は十五夜でした。三宅小学校の校長先生から、三宅島から見える満月の写真が送られてきました。三七山展望台からの写真でしょう。太平洋と水平線、三七山のなだらかな斜面に宵の口に輝く月、素敵な写真です。



十五夜と言えはお月見です。団子やすすきをお供えし、中秋の名月の日に美しい月を眺めながら、豊作への祈りと感謝の気持ちを月の神様へ捧げる行事です。

皆さんは、お団子の積み重ね方をご存じですか？左のイラストのように、下段が9個、中段が4個、上段が1個ですよ。17日の給食時に、本校栄養士が、「読売 KODOMO 新聞」のお月見団子にまつわる記事を紹介してくれました。そこに「団子の個数は十五夜の十五にあわせて15個」と記述されていました。下段が9個、中段が4個、上段が1個、すなわち、 $9+4+1=14$ です。不思議に思い、右の新聞記事をよく観ると、なんと、上段はお団子が「2個」乗っているではありませんか。上段を1個にしていた、我が家の数十年の間違いに気付くのです。「2個が正しい」。積み重ね方を間違うとご利益もきっと低減してしまいますね。「2個」に驚きました。



十五夜を調べていると、

「自分の存在が何なのかさえ 解らず震えている 15の夜」

1983年リリースの尾崎豊さんの「15の夜」が画面に現れました。当時の日本社会の生きづらさを反映した曲といわれ、彼の描く楽曲は社会へのメッセージソングでした。この曲の発売に遅れること数年、思春期を迎えた小生は、初めての入試を控え、揺れ動き、得体の知れない何かと闘い、自分の存在が何なのかさえ解らずに、不安を積み重ねていました。清瀬中の3年生も将来を考える時が来ています。小生のあの頃と同じように不安があることでしょう。しかし、今は、「母なる大地の懐に 我ら人の子の…」合唱コンクールに向けて練習を積み重ねています。



会議室で練習するクラスを拝見しました。「もっと声を出して」と声かけする生徒がいます。他のクラスでは「サビの前から強弱に気を付けて!!」「口を楽器に!!」などなど、声が飛び交い、先週の練習とは異なる雰囲気を感じました。かたや「バスの声が出ていない」「ちゃんと・・・」「このままでは・・・」不満や不安の声も出ていました。練習を積み重ねることで不満や不安を軽減することができます。

19日までに学年ごとのリハーサルが終了しました。きよせラボの野村様にアドバイスを願いました。教室から飛び出し、体育館のような大きな場所で歌わねば、自分たちの歌声がどの程度、響いているのか分かりません。アドバイスを基にリハーサルの歌声を分析し、練習方法を考えます。分析が重要!!「積み重ね方」を間違えたら、きっと成長は低減してしまいますから。



「石川啄木 一握の砂」に次の短歌があります。

不来方のお城の草に寝ころびて 空に吸はれし 十五の心

「不来方城の草の上に寝転がり、見上げた空に心が吸い込まれそうに思った15歳のころ」不安、不満も抱えていた啄木の心情が表れています。「15の夜」のタイトルのきっかけとなった短歌のようです。

不安も不満も心に余裕がない証拠。そんな時は、空に吸い込まれるのではなく、見上げた空を吸い込むくらいの深い呼吸をしましょう。十五夜の月が、空が、微笑みかけてくれます。

久しぶりの三宅島の夜空を映し出す写真。月影が、ニコッと微笑みかけてくれました。